

平成27年度 学校評価(自己評価・保護者評価・関係者評価)

1 本年度の学校経営の理念

- 自己実現へ向け最大限の可能性を伸ばす学校
- 命を守り、人の尊厳を大切に作る学校

2 本年度の指導の重点

- ① 受けとめる教育の実践～一人一人の教育的ニーズを受けとめ確かな学力・生きる力を育む授業づくり～
- ② 生かす教育の実践～可能性を信じ、持てる力を生かし、伸ばす教育～
- ③ 広める教育の実践～校内、外部の相互支援関係を広める教育～

3 自己評価結果

- 「点数化⇒平均」項目は5(優れている)＝5点、4(やや優)＝4点、3(どちらとも)＝3点、2(やや劣)＝2点、1(劣:要改善)＝1点とし平均化小数点3桁から四捨五入した数値
- $5 \geq A > 4.15$ 、 $4.15 \geq B \leq 3.35$ 、 $3.35 > C \geq 1$

評価者(学校評議委員)	関係者評価
堀内紀久美(社会福祉法人代表)	A 適切な評価
高倉 亮(本校PTA会長) 欠席	B ほぼ適切な評価
石田 敬(町内会長)	C どちらともいえない
田実 潔(大学教授)	D やや不適切な評価
戸倉 聡(歯科医師)	E 不適切な評価



分野領域	NO	評価項目	点数化⇒平均				保護者no	点数化⇒平均		改善の方策	4 評定・助言 () 内は人数
			教職員 達成状況		教職員 取組適切			保護者			
教育活動全般・ 学習指導	1	学校は、全体懇談会や学校便り「射雲」などを通じて学校の方針や重点、教育活動などについて分かりやすく伝えている。	A	4.16	A	4.18	1	A	4.21	④ 各部において一貫性や系統性に関する課題を整理し、各部主事と教務主任が共通課題の優先順位や課題解決の手順について検討する。必要に応じて、運営委員会などを通して協議を図る。	A・B・C・D・E (1) (3)
	2	本校は、学級担任を中心に連絡帳や学級便りなど必要な情報を発信し、家庭への連絡をきめ細かく行っている。	B	4.14	B	4.09	2	A	4.34		
	3	個別の教育支援計画や個別の指導計画(評価)は、願いや目標等について具体的に成果や課題が確認できるものになっている。	B	3.87	B	3.97	3	A	4.41		
	4	各学部、学年間の教育内容・方法等、一貫性・系統性が図られ、子供の実態にあったものとなっている。	C	3.19	B	3.39	4	A	4.28		
	5	学校行事は、子供の実態にあわせて適切に行われている。	B	3.78	B	3.81	6	A	4.48		
	6	校外学習や泊を伴う学習は、子供の実態や目標にあったものとなっている。(訪問学級の登校学習や集団学習	B	4.02	B	4.02	7	A	4.4		
	7	授業参観は、参観日(土曜参観日を含む)や学校公開日を含め十分に行われている。	A	4.16	A	4.2	8	A	4.34		
	8	学校は、地域の小学校や中学校、高等学校との学校間交流や保護者のニーズに基づき地域学習などに取り組み、適切な交流及び共同学習となっている。	B	4.05	B	4.04	9	A	4.18		
	9	一人一人の能力や個性を引き出す学習集団づくりができています。	B	3.8	B	3.84					
	10	授業の改善充実に向けた話し合い(内容、指導体制など)がされている。	B	3.79	B	3.87					
	11	自立活動などの相談を充実させ、日常の授業に生かしている。	B	3.93	B	3.97					
生徒指導	12	寄宿舎における生活指導は適切になされ、子供の生活は充実している。	B	4.04	B	4.09	10	A	4.18	⑬ 「各部で育てたい力表」をもとに、発達段階に応じた主体性を育てる授業づくりを行う。 児童生徒への効果的な関わりについて日常的に成果を交流できる工夫を行う。	A・B・C・D・E (1)(1)(1)(1)
	13	児童生徒の気持ちや主体性を大切にし、意欲を育てる指導をしている。	B	4.03	B	4.06	11	A	4.16		
進路指導	14	学校は、進路や福祉に関する説明や情報提供をするなどして適切な進路指導を行っている。	B	4.05	B	4.05	12	B	3.88	⑭ 進路指導部において、各部における保護者のニーズを把握した上で進路や福祉に関する情報を収集する。それをもとに進路のしおりを改訂し、ケースに応じた必要な情報提供と適切な進路指導を行う。	A・B・C・D・E (2)(2)
	15	生活体験実習・体験学習など、一人一人の自己実現に向けた実践的な取り組みが行われている。	B	4.05	B	4.04					
保健・ 健康管理	16	自立活動相談は専門医師の診断のもと、子供の健康の保持・増進や自立活動の指導に大切な役割を果たしている。	A	4.35	A	4.3	13	B	4.13	⑰ 学校保健委員会を中心に、各種マニュアルをもとに、緊急対応訓練を実施する。 ⑱ 安定した学習環境を提供するために、看護師の所在を周知するとともに、柔軟な体制が取れるようにスケジュール調整等を行う。適切な医療的ケアの実施に向けて、課題がある場合には、関係者会議等を実施し、役割分担と具体的な内容を確認する。	A・B・C・D・E (2) (1)(1)
	17	学校は、保護者・学校医・主治医等と連携し、子供の健康状態の把握や健康管理に努めている。また、体調不良や緊急の際、個に応じた適切な対応がとられている。	B	4.1	B	4.08	14	A	4.31		
	18	学校は、医療的ケアの実施について保護者に説明するとともに、看護師及び担当者によって適切に行われている。	B	3.86	B	3.86	15	A	4.38		
	19	学校給食は、工夫されているとともに、食育の指導の充実にも努めている。	B	4.11	B	4.1	16	A	4.35		
	20	再調理(ミキサー、きざみ等)や給食以外の飲食物についての安全・衛生管理は十分に行われている。	B	4.1	B	4.1					
安全管理危機 管理	21	学校は、事故の未然防止に努めるとともに、事故や緊急事態発生時に適切な対応がとられている。また事故やヒヤリハットについて可能な範囲で保護者にお知らせしている。	A	4.17	A	4.19				⑳ 防災対策委員会及び学校保健委員会が連携し、教職員に対して、ヒヤリハットの理解を進める。事故の未然防止に向けて、ヒヤリハット事例を収集し、指導場面の傾向を把握し、未然防止策を教職員に周知する。	A・B・C・D・E (2)(2)
	22	事故報告やヒヤリハット報告、個人情報等の管理は、適切に行われ事故防止に役立っている。	B	4.06	B	4.05					
	23	火災・震災・不審者・感染症等に応じた危機管理を徹底し、安全・安心な学校にするために努めている。	A	4.21	A	4.22	18	A	4.36		
	24	学校は、校舎内外の施設設備の安全管理や環境整備に努めている。	B	4.06	B	4.03	19	A	4.2		
組織運営	25	担任、学年担当、学部担当等、適切に配置され、引継ぎも十分行われ機能している。	B	3.44	B	3.54				㉕ 個別の教育支援計画や個別の指導計画、保護者のニーズなど引継ぎに必要な情報に基づき行う。引継ぎの要点については、関係者で確実な共有を図る。職員の適材適所の配置に努める。	A・B・C・D・E (2)(2)
	26	分掌の業務内容や人員が適切で機能している。	B	3.7	B	3.71					
研修	27	校内研究は、、テーマに基づき一人一人が自主的、協力的に推進している。	B	3.59	B	3.57				㉖ 校内研究によって自身が身に付けた力を自己目標シートの課題に設定するなど成果を実感できる工夫を行う。 研究成果を整理し、活用できる取組の共有化を工夫する。	A・B・C・D・E (2)(1)(1)
	28	本校で開催の各種研修会は、専門性の向上に役立ち充実している。	B	4.06	B	4.06					
特別支援教育	29	学校は、特別支援教育コーディネーターを中心に、医療・進路支援・自立活動・地域支援・教育相談等のセンター的役割を果たしている。	A	4.19	A	4.25				㉗ 支援部門会議と支援チーム会議を連動させ、支援が機能するように、会議の持ち方、開催時期について検討する。	A・B・C・D・E (3)(1)
	30	支援チーム・支援部門の連携により、個別のニーズに適切に対応することができている。	B	4.05	B	4.08					
その他	31	学校は、スクールバスの運行経路や乗車体制等について、保護者のニーズ等に基づき適切かつ安全に行っている。	B	3.98	B	4	20	B	3.98	㉘ 安全運行に向けて、バス会社に日常点検の強化を適宜申し入れ続けるとともに、スクールバス運行委員会において、添乗員の研修の協力、情報交換を行う。 ㉙ 余裕をもった周知と丁寧な対応に努める。 ㉚ PTA活動の必要性について理解と啓発を図り、活動に関わる協力を得られるように努める。	A・B・C・D・E (3) (1)
	32	事務は、就学奨励費等について分かりやすく伝えている。	B	3.97	B	3.97	21	B	3.8		
	33	PTA活動(おやじの会を含む)は、無理なく適切に行われている。	B	4.08	B	4.12	22	B	3.42		
	34	教材教具が有効に活用され、全校職員がコスト意識を持って業務推進に取り組んでいる。	B	3.53	B	3.57					
	35	教育公務員として高い倫理観を持ち服務規律の厳正な保持に努め、「報告・連絡・相談」を習慣化している。	B	3.98	B	4					

総評

5 総合評価 A・B・C・D・E (1)(3)

【堀内評議員】	教職員の評価の低さについては、学校の中だけの基準になっているかもしれないと自分の過去のことを考えて感じました。一般的な(これも難しい基準ですが)広い視点で基準を決めて評価していくとよいと思います。自分と関わっている子どもを基準にした評価も必要かと思います。今年の前向きな評価項目はよいと思います。
【石田評議員】	学校行事を中心に訪問させていただいて、教職員や児童生徒にふれあう中で立派な学校経営がされていることを感じ、深く敬意を表します。学校評価の内容もよく検討され、データ的にも実態をしっかりと捉え反省されている考えます。この結果を活かし、これからも全道の特別支援学校の中心として発展していったいただきたい。
【田実評議員】	基本的に保護者評価との相等関係の観点から評価しました。決して実践に対する評価ではありません。評価とは直接関係ありませんが、例年この時期の評価に対してのコメントを読むのですが、次年度の評価に反映されているか分かりませんでした。今年は、昨年度のコメント(4件法から5件法へ)が反映されいたので、担当者の方々に感謝
【戸倉評議員】	学校としての各取組自体は大変努力が伺われ、適切なものと考えますが、その評価方法に関しては、専門家の意見を聞いた上で再検討が必要です。自己評価の設定(A～C)の区分の意味が見いだせない。改善の方策へ取り上げる項目の基準が曖昧。自己評価(A～C)と関係者評価(A～E)が紛らわしい。